

2024 冬 子育て家庭アンケートレポート(概要)

1 調査概要

目的：コロナ禍の特例貸付の利用や返済の実態、子どもの大学等受験についての保護者の意識を把握することで、困窮子育て家庭の課題を明らかにし、必要な支援を検討するための示唆を得ること。

対象：キッズドア・ファミリーサポート登録世帯

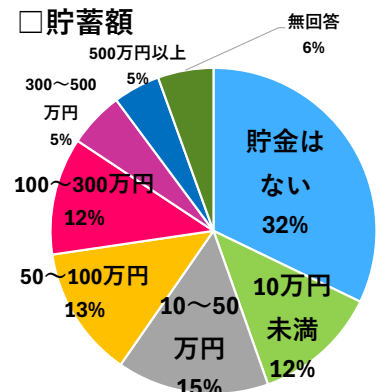
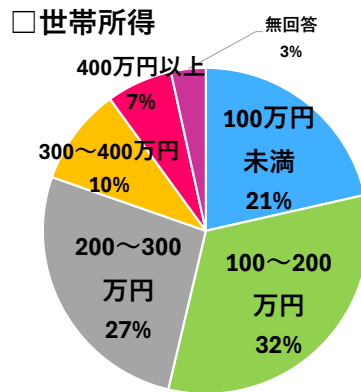
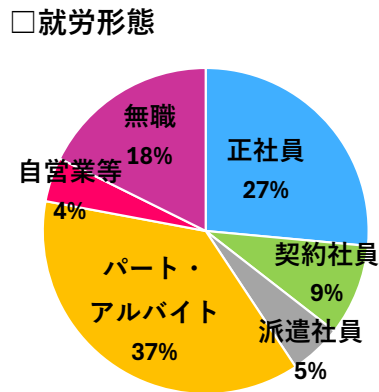
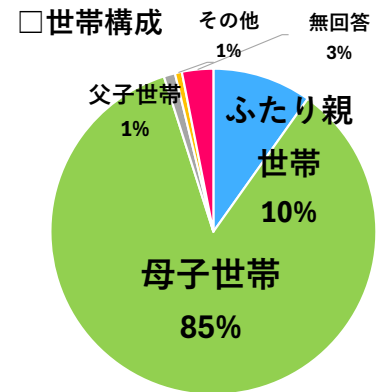
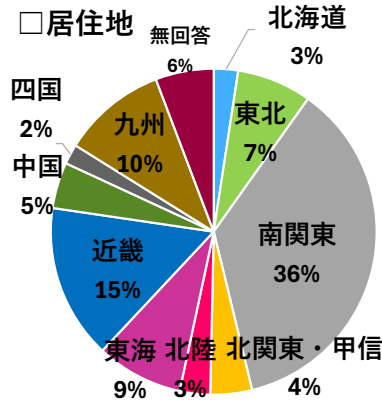
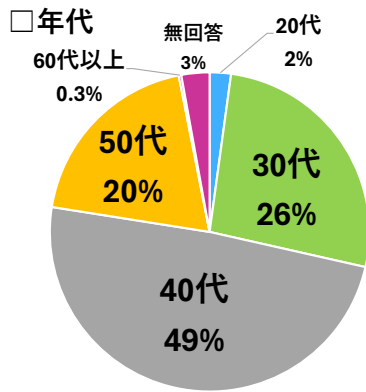
調査期間：2024年10月29日～2024年11月9日

回答数：1,160件（回答率：27%）

●キッズドア・ファミリーサポートとは？ <https://kidsdoor-family-support.jp/>

「キッズドア・ファミリーサポート」は2020年にコロナ禍に対する緊急支援という形で発足しました。現在では、困窮子育て家庭の保護者を対象に、困窮から抜け出すための物資・情報・就労支援を行っています。

回答者のプロフィール（n=1,160）



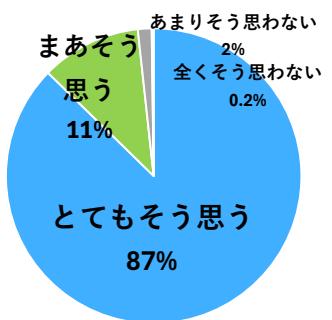
2 調査結果概要

2.1 子どもの大学や短大、専門学校の受験（対象：高校生以上の子どもがいる家庭）

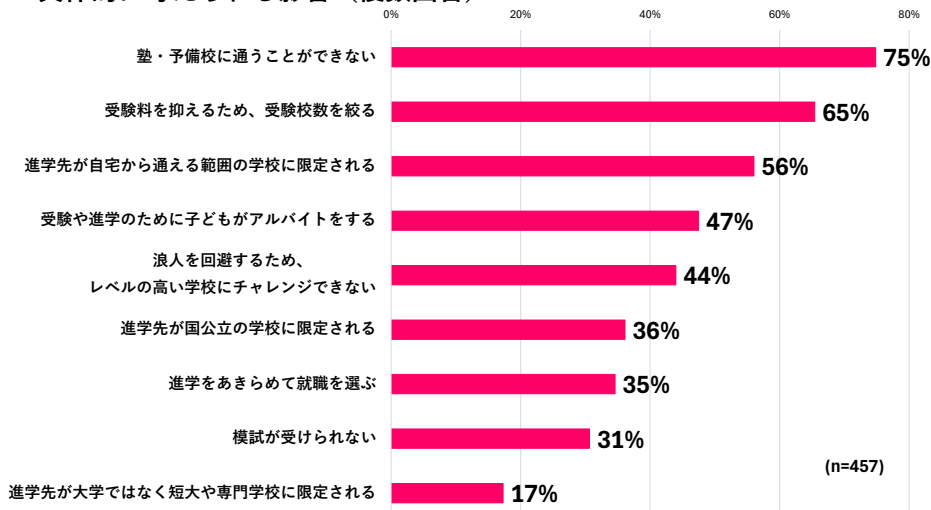
- 保護者のほとんどが、家庭の経済状況が子どもの大学等受験や進路選択に影響すると回答。塾や予備校に通うことができない、受験校数や進学先の制限、子どものアルバイト等の影響に加え、進学自体をあきらめるといった影響も考えられている。「進学をあきらめて就職を選ぶ」を選択する割合は所得が低いほど高く、所得100万円未満では約半数に達した。
- 半数以上の保護者が受験には100万円以上のお金が必要との認識。その準備手段として、就労や貯蓄に加え、約6割が何らかの借入の利用を考えている。
- 保護者の75%にとって「受験や進路について、子どもが家計の状況を気にしている」ことが精神的負担に。

- 進学後だけでなく、受験料の補助・免除、受験に活用できる奨学金の拡充、塾・予備校費用の補助といった受験段階からの公的支援の充実が求められている。

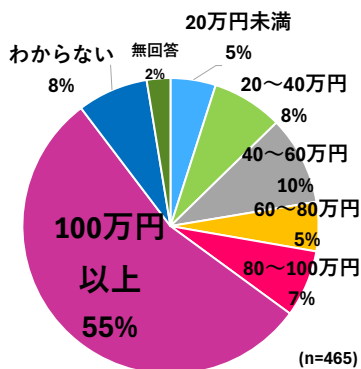
□家庭の経済状況が子どもの受験や進路選択に影響するか



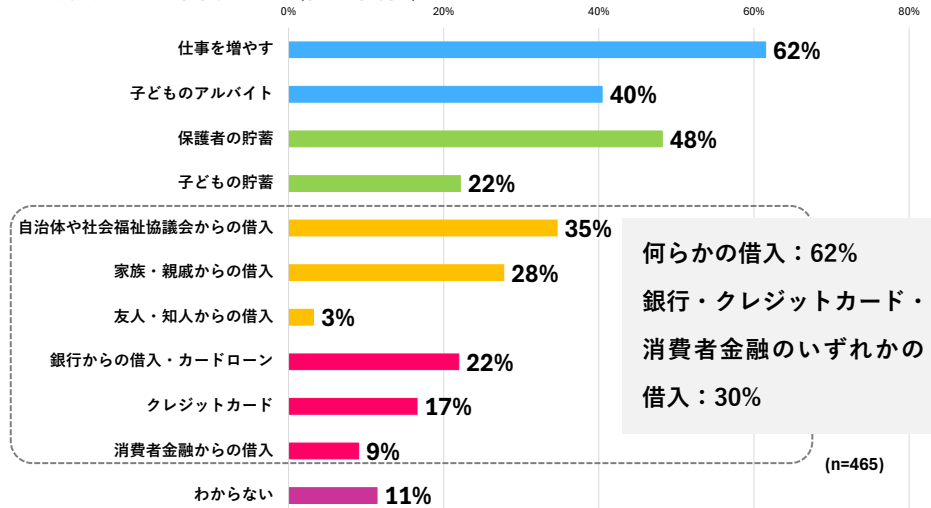
□具体的に考えられる影響（複数回答）



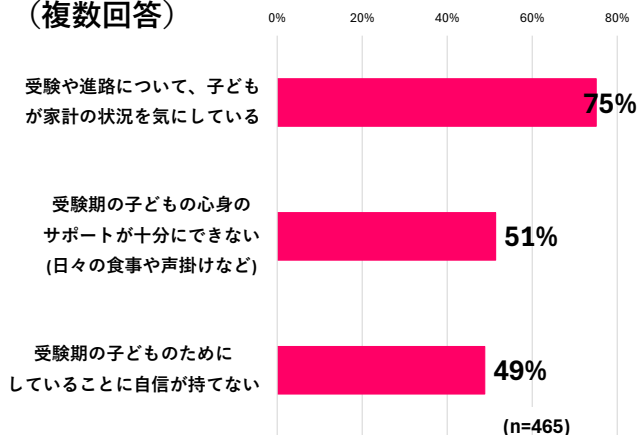
□受験費用の見積り



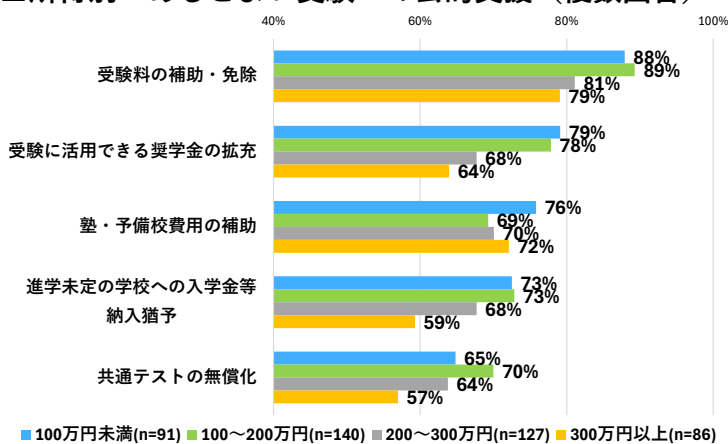
□受験費用の準備手段（複数回答）



□受験でストレスや負担に感じること（複数回答）



□所得別・あるとよい受験への公的支援（複数回答）



* 「具体的に考えられる影響（複数回答）」は、「家庭の経済状況が子どもの受験や進路選択に影響するか」で「とてもそう思う」または「まあそう思う」を選択した回答者が対象。「あるとよい受験への公的支援（複数回答）」は、「受験への公的支援があれば進路選択の幅が広がるか」で「とてもそう思う」または「まあそう思う」を選択した回答者が対象。

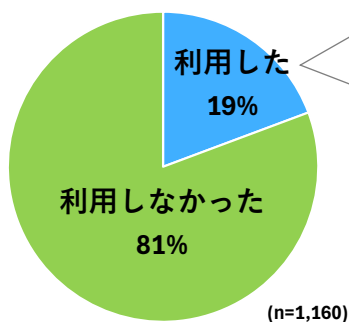
子どもの大学等受験に関する子育て家庭の声（自由記述）

- 物価高で全てが高く、食べ盛りの子供達に十分な食事もお出せない。進学させてあげたかったが、子供自身が家庭の事を気にして進学を諦め就職を希望してしまった。子供の未来を潰してしまってるみたいで、居た堪れない気持ちになります。国から母子家庭への支援をもう少し広げて欲しい。
- 高校三年の子供が、学費の安い看護学校を進学先を選びました。もし、入学試験に落ちたら、就職すると言っています。きっと、家庭の事を考えてだろうと思うと申し訳ない気持ちになります。
- 子供が今まさに自己推薦型で大学受験をしようとしているが、決まったところで2週間以内に100万円払わなくてはならず、その間に先の受験料も子供がバイト代から払っています。塾代も1教科で5万と高く、奨学金が出るまでの負担が大きい。
- 子供が大学に進学したいと言われると、母子家庭で子供を大学に行かせるのは経済的に負担が大変で、入試試験代や参考書、交通費がかかるので一時金を支援してほしいです。
- 大学受験を独学では難しいと思うが塾に行かせる余裕もない。本気で学びたい子には塾代も補助が欲しい。

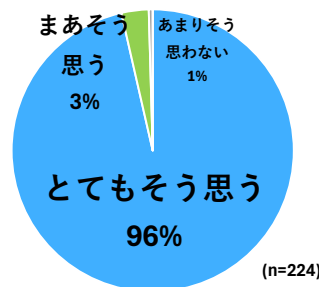
2.2 コロナ禍の特例貸付（緊急小口資金・総合支援資金）の利用と返済

- 全体の約2割がコロナ禍に緊急小口資金等を利用。コロナ禍の生活への打撃は極めて大きく、利用者のほとんどが借入は必要不可欠であったと考えている。借入額としては「80万円以上」が最多の約4割。
- 利用者の8割以上は住民税非課税等の理由で返済免除となっている。所得200万円以上になると返済免除とならなかった家庭の割合が増加する。
- 免除とならなかった家庭では、返済が家計の大きな負担になっている。中には、収入がわずかに非課税の基準を超えたことで返済が必要になったケースもあった。

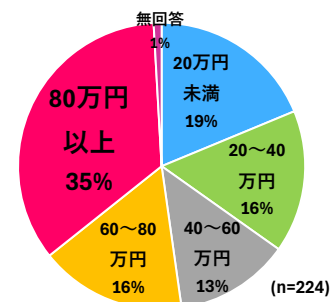
緊急小口資金等の利用



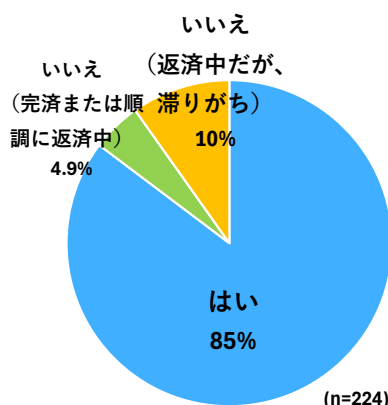
利用は絶対に必要だったか



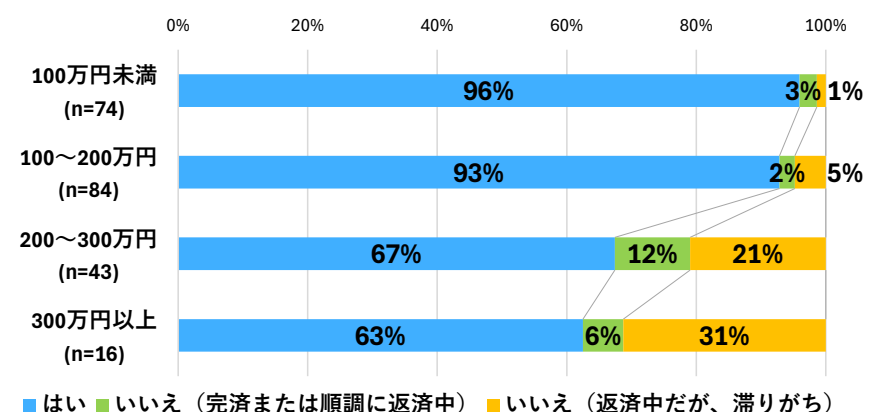
緊急小口資金等の借入額



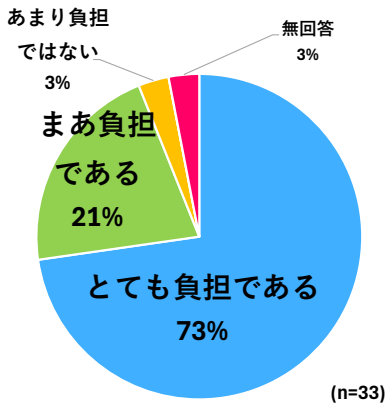
返済免除になったか



所得別・返済免除になったか



□返済の家計への負担



緊急小口資金等の返済に関する子育て家庭の声（自由記述）

- どうにかありませんか、と窓口へ電話しましたが「どうにもなりません」とだけ。昨年、2万円だけ、所得が超え「非課税世帯」から外れました、ショックでした。住民税は非課税均等割です。たった2日出勤しなければよかった、と悔やみ、仕事を辞めました。
- 生活が苦しいからお借りして助けていただいた事は感謝しているが、生活を立て直そうと仕事を頑張ったら年収が少しだけオーバーしてしまい非課税世帯から外れ、免除にならず、また生活が苦しくなった。何の為に頑張ったかわからない。
- なんとか仕事が見つかったのですが数千円のラインで返済免除ではなく返済対象となりましたが物価も上がり返済出来ておらず犯罪者の気分でも沈みがちです。どこに相談していいのか。
- 返済の為に子供に影響しないように自分のお昼を抜いたりして厳しい生活をしています。

* 「利用は絶対に必要だったか」・「緊急小口資金等の借入額」・「返済免除になったか」は、コロナ禍に緊急小口資金等を利用した回答者が対象。「返済の家計への負担」は、コロナ禍に緊急小口資金等を利用し、かつ返済免除となっていない回答者が対象。

2.3 困窮子育て家庭が抱える課題や求める支援

- 児童扶養手当受給や住民税非課税の所得上限の見直しを求める回答が多数見られた。「収入を増やそうと頑張ると、児童扶養手当もなくなり、色々な支援も審査で落ちる」、「国の給付金は非課税世帯ばかりで、課税世帯でも収入は低く、物価高に苦しんでいる」、「低所得ばかりでなく隠れた貧困にも支援がほしい」、「非課税世帯ばかり支援があり、ギリギリ中間層のひとり親も生活困窮していることをわかってもらいたい」といった声が寄せられた。
- そのほか、食料品等の物価高騰による生活への影響、進学時にかかる制服代等の工面の難しさを伝える声、18歳以上の子どもや不登校の子どもへの支援がほしいという声、支援の地域格差の改善を求める声などがあつた。

現在困っていることや支援がほしいこと（自由記述）

- 大学無償化と言っても、所得が境界線で何の支援も受けられず、とにかく学費がかかり苦しいです。非課税や多子世帯ばかりの支援が多くなり、母子家庭の中での中間層あたりは、かなり厳しいと思います。
- 収入を増やそうと頑張ると、児童扶養手当はなくなり、色々な支援も審査で落ちる。非課税世帯や全部支給の人達が優遇される。つまりは収入を上げると見捨てられるということなので頑張るのが怖い。
- 子供が大学卒業すると50代。就職不可能ではないか。また、正社員でちょっとはたらくと、大学無償化や母子手当、非課税ではいられなくなり、逆に支払いがキツくなるから今以上は働けない。
- 低所得の方の支援ばかりで、ある程度の収入があると支援が受けられません。生活が苦しいのは一緒です。何より時間を犠牲にして働いているために収入が確保できるのであって、手当などの支援を十分に受けられるように時間などをセーブして働いている方がそれなりに多いと思っています。低所得ばかりでなく、隠れた貧困にも支援がほしいです。

- いつも所得がありすぎてと支援がない。母子手当、養育費もない中、頑張ってるのに、支援されないことが多々あります。それなりに生活できるよう頑張っているのに、支援は差別なく平等に与えて頂きたい。頑張っている分損してる事がある。
- 総所得を上げて、増税と社会保険料の増額で手取り額が増えない。児童扶養手当も減額され、一生懸命働いても報われない世の中。所得制限額から、支援を受けられないことが多い。非課税世帯ばかり支援があり、ギリギリ中間層のひとり親も生活困窮していることをわかってもらいたい。
- 国の給付金は非課税世帯ばかりで、課税世帯でも収入は低く、物価高に苦しんでいる。ひとり親世帯は給付金の対象にしてほしい。
- 非課税世帯などは支援があっても、中間層には支援がない。6人家族なので生活はいつもギリギリ。生活の為に借金ばかり増え、子供達の学費も貯められず、塾にも行かせてあげられない。
- 稼ぎたいけれど「非課税世帯」でいなければならないジレンマ。
- 物価高騰でとにかく毎日が苦しいです。食費すらクレジットカードで支払い、分割にしなければ支払いができません。子供のための貯金も切り崩さなければならなくなってきています。
- お金が無く子どもたちは友だちと遊べず、食べるものもままならず、米のみしか食べる事ができない日が続いています。
- 自分の稼ぎには限界があり毎月貯金もできないくらいギリギリで生活しており、金銭的支援が欲しいです。もうすぐ中学校に上がる予定ですが、制服代が高すぎて払えないかもしれません。
- 18歳以上の子供を扶養している家も援助していただきたいです。授業料などを支払うのが難しくお金を借りたくても自治体から借りるのはものすごく手続きが複雑で時間がかかるためカードローンなどをしてしまうのではないのでしょうか。うちも生活費のためにカードローンをしたことがあります。もっと公的に借りやすい制度にもしていただきたいです。
- 子供が発達障害で不登校になってしまいました。子供の居場所が家しかないですが、働かないと生活出来ない為、1人で居させることがほとんどです。勉強面も心配ですが、他に居場所が出来ればと考えています。
- 関東圏ではない地方にも教育面における支援の充実を切に願います。